

北海道師範塾「教師への道」に参加して

せたな町立若松小学校 佐々木 朗

私は、縁があって昨年発足した北海道師範塾「教師の道」(<http://kyoshinomichi.jp>)の理事を務め、現在ホームページ更新の担当をしている。

昨年の冬の開塾記念講座、そして夏の夏期講座においては、北海道の第一線で活躍する現職教員を始め、道教委のOBなどから、「教師としてのあり方」をがっちり学ぶ私にとってすばらしい機会となっている。

私はホームページ担当として、毎日送られてくる吉田塾頭の「塾頭通信」をアップすることを始め、会の活動状況の更新や、塾生へのIDの発行などを受け持っている。

今年度の新たな事業として、教師養成塾「教師への道」を開講することになった。毎月2回土曜日に全道から受講生 31 名が札幌に集い、その道の第一線の方から講義を受けたり、演習を行ったりしている。

私にも「情報教育の講座を担当してほしい」と事務局から頼まれ、年末に1コマの講義する機会をさせていただいた。道教委のトップのOBの方々も同席しており、緊張が走ったが、若いこれからの先生へのアドバイスということで、自分の歩んできた道を中心にお話をした。

私がこの分野に興味を持って30年以上になる。前号でも述べたが、当時は、コンピュータをどんどん使っていくことだけを考え研究を進めていたが、ネットが身近なものになってからは、便利さの陰には、大きな落とし穴があることを感じ、そちらの研究へ比重をかけるようになった。今回の講座においても、受講生達に

「ケータイ」は電話ではないこと、家出女子中学生にとって、「打ちでの小槌」になることを話した。家出をしてお金に困っていても「ケータイ」さえ持っていれば、「おなかすいた」でご飯をごちそうしてくれる人がいて、「泊まる所ない」で寝る所を提供してくれる人がいる現状があるわけである。もちろん彼女たちの背後に、多大なるリスクを背負っているわけであるが、どれだけそのことを感じているのだろうか。私は受講生達に、自らも情報社会の負の面については、しっかり勉強しておくこと、そして、児童生徒そして、保護者にも、そのことをきちっと語れるようにしてほしいとお願いした。

私は、教師に一番大切なものは教育に対する「情熱」であること。そして、だれにも負けない専門分野を持つことの大切さを語った。今回、「明日の教師」の皆さんに、そんな思いを語り、彼らも真剣なまなざしを私に送ってくれた。

私自身も、自分の専門性に磨きをかけると共に、自校の、檜山の、そして師範塾の同志と共に、熱い思いを持って、日々の教育実践に励み、よりよい北海道の教育を支えていきたい。

